

国内経済情勢

概観

設備投資はこのところやや増勢を強め、個人消費も着実に増大し、需要はかなりのテンポで拡大を続けている。これを映じて商品市況は、一段と堅調味を加え、卸売物価も続騰している。一方、生産はひとところに比べいくぶん増勢鈍化きみながら、総じてみると、拡大基調には変わりなく、労働力需給も徐々に引き締まり傾向を強めている。

中小企業の借入需要は引き続き根強い動きを示している。一方、大企業では、季節的な関係もあり、これまで手控えてきた借入れを進めようとする動きも一部にみられるが、総体としては従来の落ち着き基調を大きく改めるには至っていない。

11月の外貨準備は、3か月ぶりに増加したが、通関の動きからみて、輸入は根強い増勢を持続し、貿易収支の黒字幅はさらに若干縮小した模様である。

商品市況は一段と堅調

11月から12月にかけての商品市況をみると、鉄鋼では条鋼類が急騰するとともに、鋼板類も再び上伸し、また、繊維でも綿糸、スフ糸などはかなりの上昇を示した。主力商品以外でも、セメント、基礎薬品類、紙(板紙)などが引き続き堅調裡に推移したほか、これまで軟調を続けてきた石油もようやく下げ渋る動きをみせている。

このように、商況が、このところさらに堅調味を加えているのは、寒気の到来が一部の冬物商品(繊維、灯油など)市況に若干影響している面はあるにしても、需要が基調的に根強い増勢を続けて

いることによるところが大きく、とくに民間設備投資が徐々に増勢を強めつつあることが少なからず響いているものとみられる。現に、鉄鋼やセメントなど建設関連商品の堅調が目立っているのは、こうした動きをある程度反映したものといえよう。

このような市況動向に加え、非鉄、木材の値上がりもあって、11月の本行卸売物価は前月比+0.3%と続騰した。12月上旬も前旬比+0.1%と引き続き上昇しており、このままの水準で年内横ばうとしても、41年中の卸売物価は前年比+3.8%と31年(+4.4%)以来の大幅上昇を記録することとなる。

なお、11月の消費者物価(東京、新指数)は、季節商品の値下がりから落ち着きみに推移している。

設備投資の増勢やや強まる

10月の鉱工業生産(季節調整済み、確報)は、前月比+0.5%と小幅の増加にとどまったが、最近の動きを3か月移動平均によってならしてみると、7月+1.8%、8月+1.9%、9月+1.3%とかなりの増勢を続けている。

一方、10月の鉱工業出荷(季節調整済み、確報)は、前月比+2.4%と本年4月以来の大幅増加となった。財別にみると、各財とも軒並み増加したなかで、とくに、一般資本財が電気機械をはじめ、金属加工機械、風水力機械、化学機械など設備投資関連機種を中心に相当の増加を示している。

この間、メーカーの製品在庫率は引き続き低下傾向をたどり、また原材料在庫、販売業者在庫とも生産や売上げの規模に対する比率は漸落しており、企業の在庫投資態度は依然慎重さを保ってい

る。

一方、設備投資は、関連諸指標からみて徐々に増勢を強めているものとみられ、また鉄鋼など内需の増大から供給余力の乏しくなってきた一部の業界では、大型工事の着工時期を繰り上げようとする動きもみられはじめている。

この間、一般の労働力需給は引き締まり傾向をたどり、すでに求人に対する求職の倍率(季節調整済み)は、これまで労働力需給がもっとも引き締まった39年央ごろの水準近くまで低下している。

貸出はかなり増加

11月は銀行券の増発がやや落ち着きぎみに推移(388億円、前年同月542億円)し、他方、財政資金は季節的散超月に当たったため、国債発行代り金の受入れが多額(1,282億円)にのぼったものの、1,935億円の大幅払超となった(前年同月2,781億円)。このため本行は1,297億円にのぼる長・短期債券の売却を行なって市場の余剰資金を吸収したが、本行貸出も45億円の減少となった。11月の銀行券月中平均発行高は+14.4%と前月に比べ増加率はいくぶん低下したが、引き続きかなりの高水準にある。なお、最近における財政資金対民間収支の動向をみると、租税、郵便貯金などの受入れ伸長から基調としては揚げ要因が次第に強まっている。

11月の全国銀行貸出増加額は、2,778億円と前年同月を約4割方上回った。業態別には、都市銀行、地方銀行、信託銀行(銀行勘定)の増加が目立っているほか、長期信用銀行も代理貸の著増からかなりの増加を示した。また、このところ増勢が鈍っていた中小企業金融機関の貸出も再び大幅に増加した。以上のような貸出の増勢は、中小企業の借入需要が引き続きかなり根強い動きを示したという事情のほか、金融機関が預金増強を旨とし

て積極的な貸出態度を続けている点もかなり響いているとみられる。ごく最近、大企業の一部には、季節的な要因も響いて、これまで手控えてきた借入れを進めようとする動きもみられるが、全体として大企業の借入需要は依然落ち着きぎみに推移し、貸出金利も小幅ながら低下を続けている。

なお、増資は依然低迷基調を改めていないが、一般事業債の新規起債はこのところやや持ち直している。また、公社債市況は若干の小浮動はあるものの、ほぼ保合い基調で推移している。

輸入の根強い増勢続く

11月の外貨準備は25百万ドル増と3ヵ月ぶりに増加した。ただ、通関の動きから推した季節調整後の貿易収支(IMF方式)の黒字幅は、輸入の著増が響いてさらに縮小した模様である。

11月の輸出は、通関ベースで前年同月比+23%、季節調整後でも前月比+6%とやや持ち直した。もっとも、当月は船舶の出荷が集中したという事情もあり、実勢としてさほど増加したとは思われない。品目別の動きをみると、船舶が著増したのをはじめ自動車、食料品、合繊織物などは好調を続けているが、反面、鉄鋼や綿織物は伸び悩んでいる。なお、9月来減勢を示してきた輸出信用状(季節調整済み)は、11月には前月比+4%の増加となったが、9月の水準を下回っている。

一方、11月の輸入(通関ベース)は、前年同月比+28%、季節調整後でも前月比+7%とさらに増勢が強まっている。品目別には、食料品のほか、鉄鉱石、木材、大豆など原燃料の増加が目立った。このように、原燃料輸入は根強い増勢を続けているが、原燃料消費の増大から、輸入素原材料在庫率はかなりの低水準に落ち込んでおり、生産の増勢や輸入先行指標の動きなどからみて、当面高水準の輸入が続くものとみられる。

(昭和41年12月23日)